

名 譽 会 員

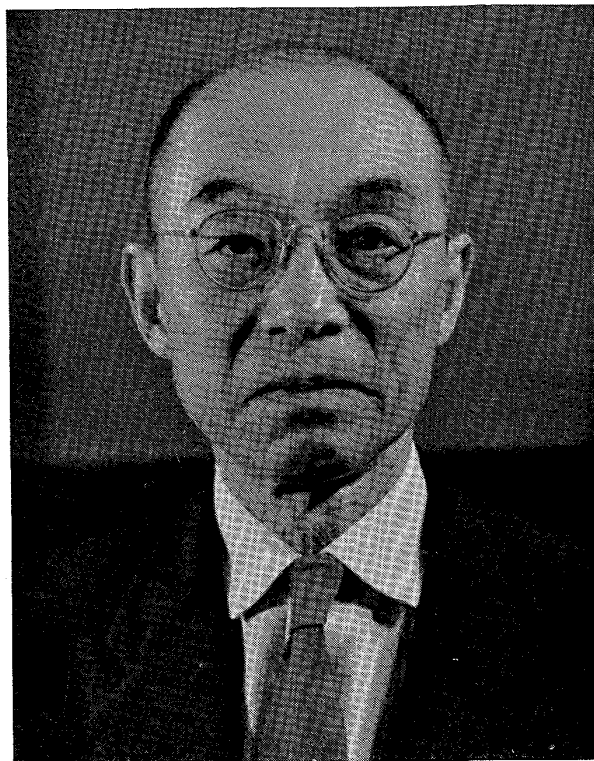


角 野 尚 徳 君

大正7年7月九州帝国大学工科大学冶金科を卒業後、直ちに当時の官営八幡製鉄所に入所、昭和21年八幡製鉄所長、昭和25年八幡製鉄株式会社副社長に就任、昭和37年相談役となり現在に至っている。この間45年の長きに亘り同社技術の向上、事業の発展に努めたが、特に終戦直後の混乱期における生産再開、戦後中期における老朽設備の更新と近代化による合理化計画の推進、近年の戸畑地区における土地造成、合理的工場配置による銑鋼一貫新製鉄所の建設、斬新な管理体制の採用等は顕著なもので、これらは同社の発展に寄与したのみでなく今日におけるわが国鉄鋼業の飛躍的發展、国際競争力の増大の基礎をみなしたものである。

本会に関しては昭和16年以來評議員、九州支部長などとして事業運営に協力したが、特に昭和31年から2年間会長として本会の発展に尽した。また昭和37年には本会渡辺義介賞を授けられた。

名 譽 会 員



塩 沢 正 一 君

大正5年早稲田大学理工科採鋇冶金学科を卒業，さらにマサチューセッツ工業大学その他に留学，大正11年早稲田大学助教授に就任以来，同大学教授，鑄物研究所長を歴任，昭和38年停年退職され現在名誉教授となつている。

この間学生，研究者の教育，育成に尽瘁されると共に自ら多くの研究を行ない本会会誌，鑄物研究所報告などに論文を發表，また，学外にあつては日本學術振興会の關係小委員会委員その他として學術，技術の進歩發達に貢獻した。

本会に関しては編集委員，評議員として永年協力されたが昭和33年から2年間会長として本会の發展に尽力された。

名 譽 会 員



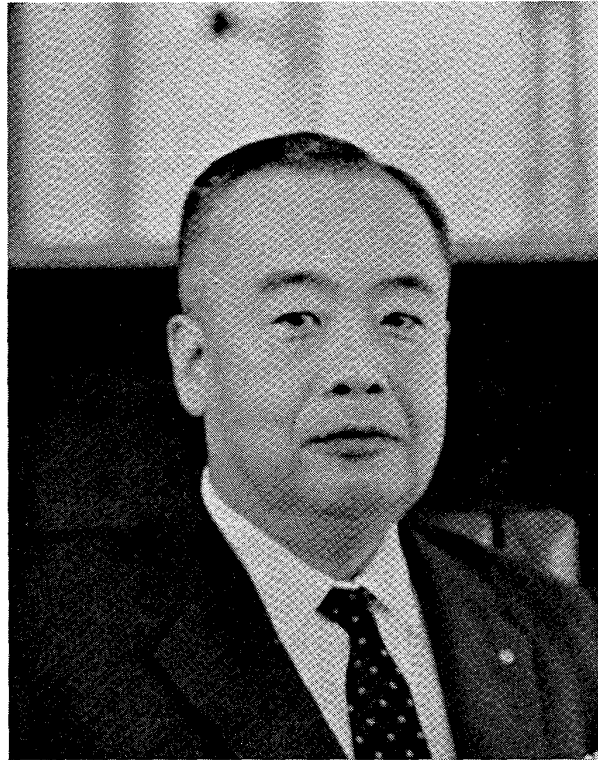
西 山 弥 太 郎 君

大正8年7月東京帝国大学工学部鉄冶金学科卒業後、直ちに川崎重工業株式会社の前身である株式会社川崎造船所に入社し、専ら同社製鉄部門の拡充発展に努め、昭和25年8月川崎製鉄株式会社の分離独立とともに取締役社長となり現在に至っている。

この間ルップマン式平炉製鋼法の確立、平炉における大量酸素製鋼法の技術的基礎の確立、高性能珪素鋼板の製造等の技術的功績を挙げたが、更に特筆すべきは同社千葉製鉄所の建設に当つて示された君の鉄鋼事業運営に対する卓越した功績でありこれが同社の飛躍的發展をもたらしたが、同時にわが国鉄鋼業の合理化計画に対する革新的な示唆となり、今日の目覚ましい成長と国際競争力の涵養の礎石をなしたものである。

本会に関しては昭和15年以来引続き評議員として本会の発展に尽力された。昭和37年には、渡辺義介賞を授けられた。

名 譽 会 員



広 田 寿 一 君

大正 12 年 3 月京都帝国大学工学部機械科卒業後直ちに株式会社住友製鋼所（住友金属工業株式会社の前身）に入社，製鋼所，和歌山製造所に勤務昭和 24 年新扶桑金属工業株式会社（昭和 27 年住友金属工業株式会社に社名変更）社長，昭和 37 年同社取締役会長に就任し現在に至っている。

この間君は終戦前は同社製鋼所の車輛，鑄鍛鋼製造技術の向上に努め，戦後は同社経営の最高責任者として敗戦による打撃からの再建に献身した。さらに昭和 31 年には和歌山工場の銑鋼一貫化，各製造所の近代化を推進し同社の経営基礎を確立した。これはわが国鉄鋼業が今日の確固たる地位を築くにあたり寄与するところ多大であった。昭和 36 年には鉄鋼業界に尽した功績により藍綬褒章を授与された。

本会に関しては昭和 22 年以来引続き評議員として，昭和 33 年から 2 年間は関西支部長として本会の発展に尽すとともに関係諸団体の要職にあつて鉄鋼技術の向上に貢献している。